

令和6年度 練馬区立開進第二中学校「学校経営計画」

令和6年4月1日

目指す学校像	① 生徒の笑顔にあふれ、明日も登校したくなる学校 ③ 地域とともに歩み、協力を得られる学校	② 保護者にとって、安心して子供を登校させることのできる学校 ④ 「チーム」として、迅速に課題を解決する学校
--------	--	---

教育目標	「自立」 よく考える人になろう	「勤 労」 すすんで働く人になろう	「協 調」 ともにたすけあう人になろう
目指す生徒像	授業に集中して取り組み、仲間と協働して主体的に学び続けている生徒	夢や目標の実現に向け自ら行動し、自己肯定感を高めている生徒	自他を大切にし、先手必勝で自ら行動している生徒
中期経営目標	<第1学年> 姿勢を整え、集中して授業に取り組む。 <第2学年> 自ら課題を発見し解決に向けて考える。 <第3学年> 仲間と協働して課題を解決している。	<第1学年> 数か月後の具体的な姿を描き行動できる。 <第2学年> 数年後の具体的な姿を描き行動できる。 <第3学年> 数年後の具体的な姿を描き行動し改善できる。	<第1学年> 先手必勝で自らあいさつする。 <第2学年> 先手必勝で自ら仲間に声かけする。 <第3学年> 先手必勝で自ら全ての人に声かけする。
主な具体的方策	① 校長による授業観察の充実を図り、各教科で、授業のねらい、内容に応じて発問を工夫し、話し合いの意図(拡散・収束・調整)を明確にしてタブレット等を活用する。 ② 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等との関連性を意識して、 <u>学ぶことと夢や未来を繋げる授業づくり</u> を行う。 ③ 各教科で、 <u>単元を通して反転学習を行う内容を明確</u> にし、家庭学習と結び付ける。 ④ 適正な評価・評定を行うために、評価する際の評価資料や評価方法等の精度を高め、 <u>保護者への事前説明を充分に行う</u> 。	① 教科等の学習と特別活動や職場体験などを関連付け、体験活動等の意義を明確にして、 <u>自分は人のために役立っているという気持ち</u> を高める。 ② 生徒の思いや願いを受け止め、「 <u>共感・感謝・敬意</u> 」の心を大切にして帰属意識を高める。 ③ 生徒会活動、委員会活動、部活動の実体験を通して、 <u>集団の中で自己実現を実感</u> する。 ④ 保健体育や体育的な行事で実体験したことを通して健康や体力の必要性を実感し、 <u>自分に適したスポーツライフの実現</u> を図る。 ⑤ 学校生活を通して、「生活・交通・災害」等に対する当事者意識を高め、 <u>危険予知能力や危険回避能力の必要性を理解</u> する。	① 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等と人権教育の課題を関連付けた単元計画を作成し、 <u>3年間継続して人権教育を行う</u> 。 ② 「自己肯定感を高め、多様性を認め合う生徒の育成」という東京都の人権尊重教育推進校の研究を通して、 <u>生徒、教職員一人一人の人権感覚や人権意識を高める</u> 。 ③ いじめや不登校の未然防止、早期対応に向け、全教職員による見守活動や定期研修を実施し、生徒たちの「 <u>居場所づくり</u> 」と「 <u>きずなづくり</u> 」につながる双方向の関係性を築く。 ④ 関係諸機関と連携を図りながら、生徒や保護者が「いつでも・どこでも・誰とでも」相談できるような学校内の雰囲気醸成する。

目指す教師像 ① 生徒を認め、生徒と共に学び続けることのできる教師 ② 生徒の自己実現を支援できる教師
③ 生徒の心に寄り添うことのできる教師 ④ 教育公務員としての自覚をもって、職務を遂行する教師

教育目標	「自立」 よく考える人になろう	「勤 労」 すすんで働く人になろう	「協 調」 ともにたすけあう人になろう
主な具体的方策	<p>① 校長による授業観察の充実を図り、各教科で、授業のねらい、内容に応じて発問を工夫し、話し合いの意図(拡散・収束・調整)を明確にしてタブレット等を活用する。</p> <p>② 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等との関連性を意識して、<u>学ぶことと夢や未来を繋げる授業づくりを行う。</u></p> <p>③ <u>各教科で、単元を通して反転学習を行う内容を明確にし、家庭学習と結び付ける。</u></p> <p>④ 適正な評価・評定を行うために、評価する際の評価資料や評価方法等の精度を高め、<u>保護者への事前説明を充分に行う。</u></p>	<p>① 教科等の学習と特別活動や職場体験などを関連付け、体験活動等の意義を明確にして、<u>自分は人のために役立っているという気持ち</u>を高める。</p> <p>② 生徒の思いや願いを受け止め、「<u>共感・感謝・敬意</u>」の心を大切にして帰属意識を高める。</p> <p>③ 生徒会活動、委員会活動、部活動の実体験を通して、<u>集団の中で自己実現を実感する。</u></p> <p>④ 保健体育や体育的な行事で実体験したことを通して健康や体力の必要性を実感し、<u>自分に適したスポーツライフの実現</u>を図る。</p> <p>⑤ 学校生活を通して、「生活・交通・災害」等に対する当事者意識を高め、<u>危険予知能力や危険回避能力の必要性を理解する。</u></p>	<p>① <u>教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等と人権教育の課題を関連付けた単元計画を作成し、3年間継続して人権教育を行う。</u></p> <p>② 「自己肯定感を高め、多様性を認め合う生徒の育成」という東京都の人権尊重教育推進校の研究を通して、<u>生徒、教職員一人一人の人権感覚や人権意識を高める。</u></p> <p>③ いじめや不登校の未然防止、早期対応に向け、全教職員による見守活動や定期研修を実施し、生徒たちの「<u>居場所づくり</u>」と「<u>きずなづくり</u>」につながる双方向の<u>関係性を築く。</u></p> <p>④ 関係諸機関と連携を図りながら、生徒や保護者が「<u>いつでも・どこでも・誰とでも</u>」相談できるような学校内の<u>雰囲気</u>を醸成する。</p>
評価指標 肯定的な回答が80%以上	<p>① 電子黒板やタブレット端末などのICT機器を活用して、楽しく分かりやすい授業が行われている。(H5：生徒 83%-5・教員 83%+8)</p> <p>② 感染対策をした上で、考えたり話し合ったりする場面が授業に位置付けられている。(H5：生徒 94%+11・教員 83%-5)</p> <p>③ 別の教科の内容にも関連付けながら、何のために学習するのかを意識させた授業が行われている。(H5：生徒 77%+2・教員 96%+8)</p> <p>④ 新しい評価の観点に基づいた適正な学習評価が行われている。(保護者 80%+9)</p>	<p>① 挨拶・時間を守る等の基本的な生活習慣を身に付けるための指導が行われている。(H5：生徒 93%+1・教員 87%+3)</p> <p>② 感染やけがの防止をはじめ、健康や安全について配慮しながら生活するよう指導が行われている。(H5：生徒 89%-2・教員 100%+13)</p> <p>③ 生徒は、部活動をはじめ委員会活動等に一生懸命取り組んでいる。(H5：生徒 92%+4・教員 83%-13)</p> <p>④ 生徒は運動会や学年の行事に、学級の人と協力しながら、主体的に取り組んでいる。(H5：生徒 91%0・教員 96%0)</p>	<p>① <u>生徒は様々な場面で「思いやりの心」をもち、みんなの人権を尊重する行動を取っている。</u>(H5：生徒 87%-4・教員 78%-2)</p> <p>② 生徒は道徳での学びと、「自他ともに大切にする思いやりの心」をつなげながら授業を受けている。(H5：生徒 86%-5・教員 87%-1)</p> <p>③ 学校は、教室の掲示物や環境美化、清掃活動をきちんと行っている。(H5：生徒 83%-5・教員 87%0)</p>